

実用新案公報

昭53-37515

⑤Int. Cl.²

識別記号

⑥日本分類

庁内整理番号

④公告 昭和53年(1978)9月11日

A 61 G 7 / 00

94 A 731

6750 — 54

A 47 C 19 / 04

126 B 14

7264 — 26

A 61 G 7 / 10

(全 2 頁)

④床板支持枠の昇降傾斜機構

②実 願 昭51—126240

②出 願 昭46(1971)12月27日

公 開 昭52—94096

③昭52(1977)7月14日

⑥実 願 昭46—122587の分割

⑦考 案 者 木村隆輔

東京都江東区東砂2の14の5

⑦出 願 人 木村寝台工業株式会社

同所

⑦代 理 人 弁理士 三鷺晃司

⑦実用新案登録請求の範囲

頭側及び足側に対応する床板支持枠の下側に、夫々該床板支持枠の短手方向に回動杆を固定すると共に、該回動杆の夫々には、その両側に回動腕を固着し、前記夫々の回動杆に固着した回動腕を前記回動杆から突出させ、一方の回動杆から突出させた回動腕は基台に固着した支持腕に連結すると共に、他方の前記回動杆から突出させた回動腕は基台に回動自在に固定した遊動支持腕に連結し前記夫々の回動杆には作動腕を設けて、該作動腕によつて前記回動杆を回動させる構成とし、前記作動腕は夫々個別の伸縮杆に連結したことを特徴とする床板支持枠の昇降傾斜機構。

考案の詳細な説明

本考案は床板支持枠の昇降傾斜機構に関するものである。診察台、治療台、寝台等の床板の高さは、診察、治療あるいは注射等の処置に際して適宜に調節出来ることが望ましく、また病気の種類によつては、治療、処置の一環として患者の頭側あるいは足側を他側よりも高く維持するために、前記床板を傾斜させる必要も生じる。本考案は極めて簡単な構造によつて床板を前述に示すような種々場合に依つて適宜に昇降及び傾斜自在とした床板支持枠の昇降傾斜機構を提供するものである。

以下本考案を実施例に基づいて詳細に説明すると次の通りである。

符号1は床板支持枠であり、頭側及び足側に対応する該床板支持枠1の下側に、夫々短手方向に回動杆2, 3を固定すると共に、該回動杆2, 3の夫々には、その両側に回動腕4, 5を固着し、該回動腕4, 5を前記回動杆2, 3から突出させる。一方の前記回動杆(図では回動杆2……以下図に準ずる。)から突出させた回動腕4は基台6に固着した支持腕7に連結すると共に、他方の回動杆3から突出させた回動腕5は、前記基台6に回動自在に固定した遊動支持腕8に連結する。前記回動杆2, 3の夫々には作動腕9, 10を設けて、該作動腕9, 10により前記回動杆2, 3を回動させる構成とする。符号11, 12は前記床板支持枠1の下側に装置した駆動源13, 14に連なる伸縮杆であり、該伸縮杆11, 12の先端を夫々前記作動腕9, 10を夫々個別に作動する構成とする。ここで前記作動腕9, 10は前記回動杆2, 3に固着した構成としても良いし、図に示すように回動杆2, 3に対して回動自在に固定すると共に、前記床板支持枠1を重力に抗して上昇させる方向にのみ前記回動杆2, 3に係合して回動させる構成としても良い。また前記伸縮杆11, 12の構成は、図に示す様に雌ネジ15と雄ネジ16を螺合させ、該雄ネジ16を回転させることによつて雌ネジ15を進退させて伸縮する構成の他、油圧シリンダ等如何なる機構を用いても良いし、また前記駆動源13, 14も前記伸縮杆11, 12の構成に応じて電動機、手動ハンドルあるいは油圧ポンプ等如何なるものでも良い。

かかる構成において、前記伸縮杆11, 12のいずれか一方、例えば駆動源14を駆動して伸縮杆12を縮めると、作動腕10は該伸縮杆12に引かれて回動し、回動杆3並びに該回動杆3に固着した回動腕5が図中時計回りに回動する。しかして床板支持枠1は前記回動腕5の回動につれて

3

4

他方の回動腕4と支持腕7の連結点を支点として回動杆3側、例えば足側が上昇し、傾斜する。かかる傾斜の際、回動腕5の先端部は前後に移動するが、かかる前後の移動は遊動支持腕8の遊動によつて吸収する。同様に、回動杆2側を上昇させる場合には駆動源13を駆動して伸縮杆11を縮めれば良い。以上の如く床板支持枠1の回動杆2側あるいは回動杆3側の一方を上昇させて傾斜させることにより、患者の足側あるいは頭側を他側よりも高く維持し、患者の血行状態等を変えて、病気の種類に応じた治療、処置を行なうことができる。尚、診察、治療あるいは注射等の処置に際して床板を水平状態に上昇して患者の仰臥高さを調節する場合には、両方の駆動源13、14を同時にあるいは相前後して駆動することにより、前述と同様に伸縮杆11、12を縮めて、前記床板支持枠1の回動杆2側及び回動杆3側の両方を上昇すれば良いし、患者等の昇降には前記駆動源13、14を逆に駆動して床板支持枠1を下降させ

れば良い。

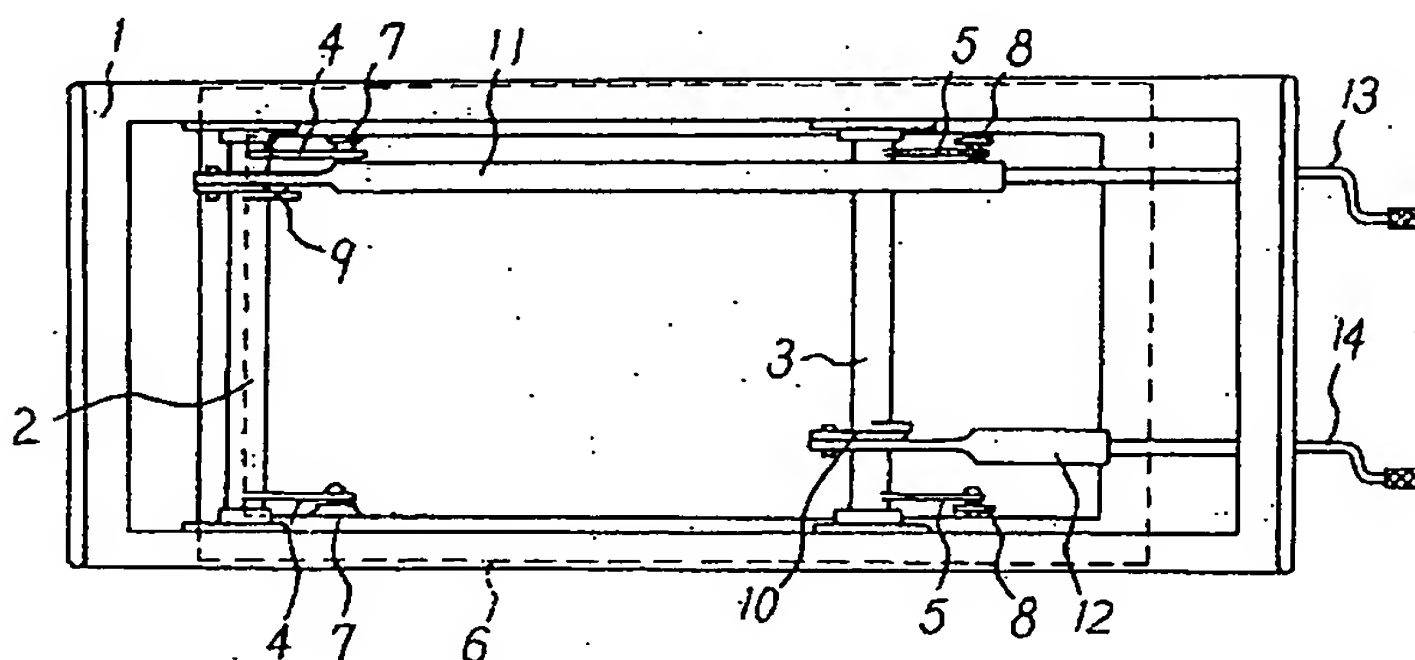
本考案は以上の通りであるので、床板を傾斜させて患者の血行状態を変える等の、病気の種類に応じて治療、処置を行ない得る特徴を有すると共に、診察、治療、あるいは注射等の処置に際して床板の高さを最適に調節でき、かかる診察等を非常にやり易く、患者の昇降にも極めて便利である本考案は極めて合理的な機構であり、寝台は基より、診察台、治療台等にも適用して最適である。

図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示すものであり、第1図は平面説明図、第2図は床板支持枠を傾斜させた状態を示す断面説明図である。

符号1……床板支持枠、2、3……回動杆、4、5……回動腕、6……基台、7……支持腕、8……遊動支持腕、9、10……作動腕、11、12……伸縮杆、13、14……駆動源、15……雌ネジ、16……雄ネジ。

第1図



第2図

